

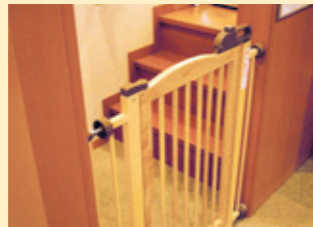
Check 2 身の回りの安全環境づくり

簡単に取り組める身の回りの事故予防のための工夫をいくつか紹介します。お子さんが3歳になるまでは、安全な環境を作っておくことが大切です。



ハイハイをはじめたら、階段には柵を

ハイハイを始めると、1人で家の中のあらゆる所に行ってしまう。階段や台所には入れないようにガードしましょう。



コンセントへのいたずらにも注意を

コンセントへのいたずらで、子どもが感電する事故も起こっています。いたずら防止キャップの取り付けや、ヘアピン等の金属類は手の届かない場所に片付けましょう。



扉での手はさみ 事故を防ぐ

子どもが扉の隙間などに指を入れてしまい、骨折などを起こすことがあります。牛乳パックを使って手を挟まない工夫を。



車に乗る時は必ずチャイルドシートを

6歳未満のお子さんを車に乗せて運転する時は、必ずチャイルドシートを使用しましょう。また、チャイルドシートは正しく使用することが重要です。



これらの工夫はあいち小児保健医療総合センター事故予防ハウスに展示してあります。見学ご希望の方は、保健室へお問い合わせください。

Check 3

誤飲チェック

この円の直径が39ミリです。

事故予防8つのチェック項目

- その1 **誤飲・窒息**: 誤飲チェッカーで確認、口径39ミリ以下の大きさの物は、床面から1メートル以上の高い場所に置く
- その2 **気管支異物**: 3歳になるまでは乾いた豆・ナッツ類は食べさせない
- その3 **階段からの転落防止**: 転落防止の柵をつける
- その4 **ベランダからの転落防止**: 踏み台となるもの(プランター・新聞の束など)を置かない

★子どもの事故予防教室★

事故予防ハウスでの事故予防体験と救急蘇生法の実習など

日時 第3土曜日 午前10時～ **場所** あいち小児保健医療総合センター 事故予防ハウス(1階アトリウム)

申込み 予約制となります。あいち小児保健医療総合センター保健室までお電話ください。

電話 0562-43-0500(代表) 内線4042

その5 **浴槽での溺水**: 残し湯はしない、浴室に簡単に入れない工夫

その6 **やけど**: 給湯温度の設定、熱源を遠ざける、花火に注意

その7 **自動車の事故**: チャイルドシートの使用、車中に乳幼児を1人で放置しない

その8 **自転車の事故**: ヘルメットの着用、足のガード、自転車への乗せ方

たいせつな笑顔をももる 3つのチェック

子どもの事故予防

わたしたちができること

事故は「全く予測ができない」と以前は考えられていましたが、最近では子どもの事故においては、予防可能な事故が多くあるとわかってきました。

子どもの事故を予防するために出来ること = 親が目を離しても安心な安全環境をつくること

わが子を事故から守るために自分たちで出来ることは何なのか? 一緒に考えていきましょう。

◆子どもの発達と事故例

子どもの発達過程において、どの時期に、どのような事故が起こりやすいか確認してみましょう。子どもの運動機能の発達には個人差がありますので、あくまで目安としてください。

| | 誕生 | 3か月 | 4か月 | 5か月 | 6か月 | 7か月 | 8か月 | 9か月 | 10か月 | 11か月 | 12か月 | 13か月 | 1歳半 | 2歳 | 3歳 | 3~5歳 |
|----------------|------------------|----------------------|----------|------------|-------------------|---------|--------------|-----------|------------------|----------------------------------|-------|---------|-----|----------|----------|------|
| 運動機能の発達 | 体を動かす足をバタバタさせる | 見たものに手を出す、口の中にものを入れる | 寝返りをうつ | 座る | はう | ものをつかむ | 家裏につかまり立ちをする | 一人歩きする | スイッチ・ノブ・ダイヤルをいじる | 走る・のぼる | 階段のぼり | 高い所へのぼる | | | | |
| 転落 | 親が子を落とす | ベッド・ソファからの転落 | | | 歩行者による転落 | 階段からの転落 | バギーや椅子からの転落 | 浴槽への転落 | 階段のぼり | 窓・バルコニーからの転落 | すべり台 | ブランコ | | | | |
| 切傷・打撲 | | | 床にある鋭いもの | 鋭い角のあるおもちゃ | | | 鋭い角の家具・道具 | カミソリのいす | | 鋭いテーブルの角、ドアのガラス、ドアに手をささむ引き出しの角など | | | | | | |
| やけど | 熱いミルク | 熱い風呂 | | ポット | 食卓・アイロン | | 炊飯器 | ストーブ | ヒーター | | | | | マッチ・ライター | 濡わかし器・花火 | |
| 誤飲・窒息 | まくら、柔らかいふとんによる窒息 | なんでも口に | | 入れる | 小物・タバコ・小さなおもちゃの誤飲 | | | よだれかけ | ひも・コード | ナッツ・豆類 | | 薬・化粧品 | | | ビニール袋 | |
| 交通事故 | 自動車同乗中の事故 | | | | 母親と自転車の二人乗り | | | 道でのヨチヨチ歩き | | | | | | | | |
| 溺水事故 | 入浴時の事故 | | | | | | | | | | | | | | | |

◆子どものこんな特徴が、事故に結びつくことがあります。

- ・頭が重いので、重心が高く、バランスを失って転びやすいです。
- ・大人より視野が狭いので、空間を把握する力が足りません。
- ・手に触れたものは、なんでも口に持っていきます。
- ・大人や動物のまねが大好きです。
- ・好奇心が強く、想像もできないような遊び方や、道具の使い方をします。
- ・行動が自己中心的で、こわいもの知らずです。
- ・前後左右の判断ができず、突然飛び出したりします。
- ・手に触れたものは、なんでも口に持っていきます。
- ・じっとしているのが苦手で、注意力も不足しています。
- ・気分屋さんで、感情の起伏も大きく、気まぐれです。

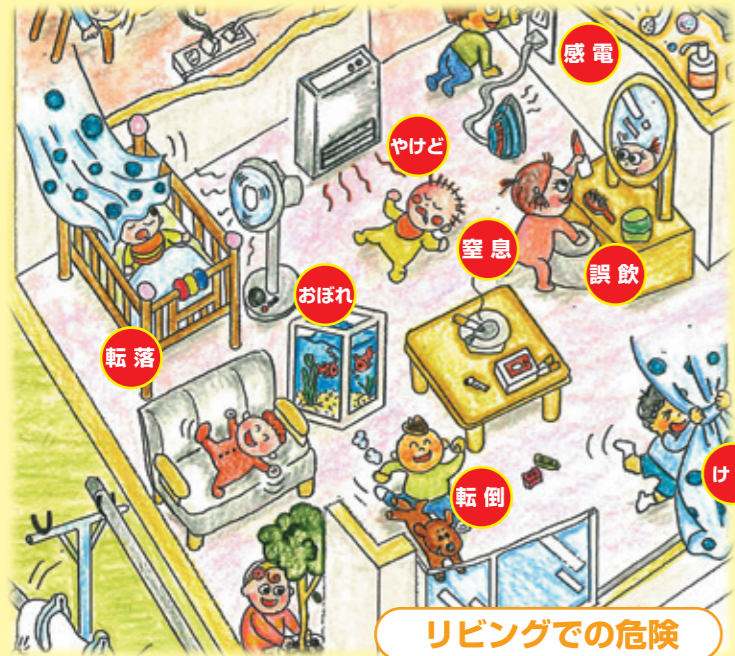
◆年齢別にみた死亡順位 愛知県(2014~2018年の集計)

| 年齢 | 第1位 | | 第2位 | | 第3位 | | 第4位 | | 第5位 | |
|--------|----------------|---------------|---------------------|--------------|----------------|--------------|----------------------|-------------|-------|-------------|
| | 死因 | 死亡数割合 | 死因 | 死亡数割合 | 死因 | 死亡数割合 | 死因 | 死亡数割合 | 死因 | 死亡数割合 |
| 0歳 | 先天奇形、変形及び染色体異常 | 201人 33.8% | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 92人 15.5% | 乳幼児突然死症候群 | 31人 5.2% | 胎児および新生児の出血性障害及び血液障害 | 25人 4.2% | 不慮の事故 | 22人 3.7% |
| 1~4歳 | 先天奇形、変形及び染色体異常 | 46人 22.2% | 悪性新生物 | 29人 14.0% | 不慮の事故 | 23人 11.1% | 肺炎 | | 心疾患 | 7人 3.4% |
| 5~9歳 | 悪性新生物 | 26人 20.8% | 不慮の事故 | 21人 16.8% | 先天奇形、変形及び染色体異常 | 16人 12.8% | インフルエンザ | | 心疾患 | 5人 4.10% |
| 10~14歳 | 悪性新生物 | 33人 22.6% | 自殺 | 23人 15.8% | 不慮の事故 | 17人 11.6% | 先天奇形、変形及び染色体異常 | 9人 6.2% | 脳血管疾患 | 7人 4.8% |

愛知県では、どの年代の子ども(0~14歳)の死因にも、上位5位までに不慮の事故があります。現在の我が国においては、子どもの事故を予防することが緊急の課題になっており、21世紀における母子保健の国民運動計画である「健やか親子21(第2次)」や、愛知県の子ども・子育てに関する総合計画「あいちはぐみんプラン2015-2019」においても「子どもの事故予防」が掲げられています。

今、目の前にいる子どもの周りを見回して見てください。
ここでは、年齢や状況別に不慮の事故をがどんなところにかくれているかを紹介し
とくに、家庭や家庭を取り巻く環境の中で、どこでどんな事故が起きやすいかを学んでみましょう。
乳児期や幼児期の前半は、親や家族が安全な環境を作ることが必要です。
成長にともなって少しずつ危険なものがあるようになってきたら繰り返し安全教育をしていくことが大切になってきます。

家庭の中でおこる事故



リビングでの危険

居間での事故が多発!!

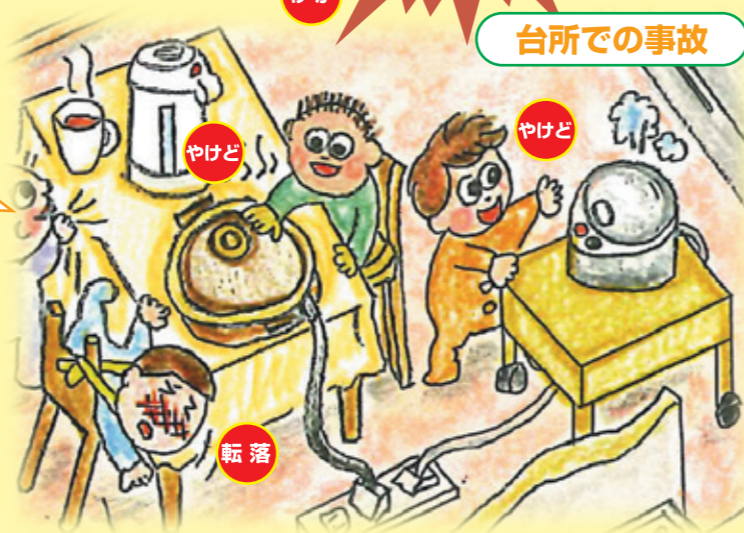
とくに誤飲や窒息の事故に注意が必要です。直径39mmより小さいものは子どもの手の届かない1m以上の高さのところに片付けましょう。(薬、化粧品、洗剤、コイン、おもちゃ、アクセサリ、豆、あめ玉、ティッシュペーパー、ビニール等)

おもちゃは対象年齢を確認し、子どもの年齢に合ったものを利用しましょう。

タバコの誤飲事故が多い

台所ではやけどの事故が多い!

台所にはやけどの原因となる熱源がたくさんあります。台所には簡単に入れないように柵をつけたり、熱くなるものは手の届かない高さの所に置きましょう。刃物類の管理にも注意が必要です。



台所での事故

浴室での危険

誤飲 やけど
おぼれ 転落



階段での危険

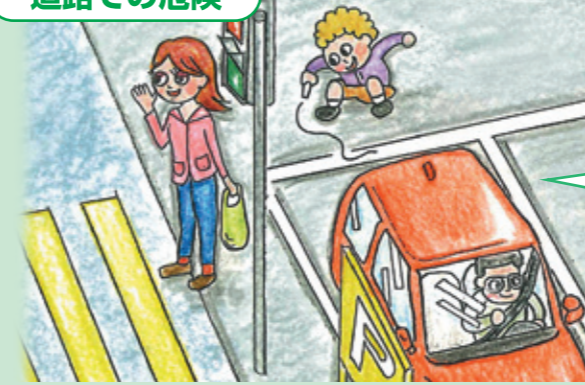
転落と溺れの事故は危険度が高い!

小さい子どもがいる家庭では浴槽に残し湯をしないこと、浴室には簡単に入れない工夫を。ハイハイができるようになると階段からの転落事故が起こりやすくなるため、階段には上り口と降り口に柵をつけるなどの対策をしましょう。

家庭の外でおこる事故

行動範囲が広がると、屋内から屋外へと事故が起こる範囲も広がります。
道具を使つての遊びや大人のまねをしたりなど、子どもは身の回りにあることすべてが遊びになります。
しかし目の前にあることに夢中になり、危険を判断する力は不十分です。

道路での危険



駐車場での事故や自動車同乗中の事故が多く起きています。チャイルドシートの着用は大人のシートベルトと同じように習慣づけが大切です。年齢が上がるにつれ、飛び出しなどの道路での事故も増えるので交通ルールを教えたり、自転車は車の通らない所で乗るように指導したりすることが大切です。

駐車場での危険

やけど 転倒 熱中症 けが 交通事故

おもちゃでの危険



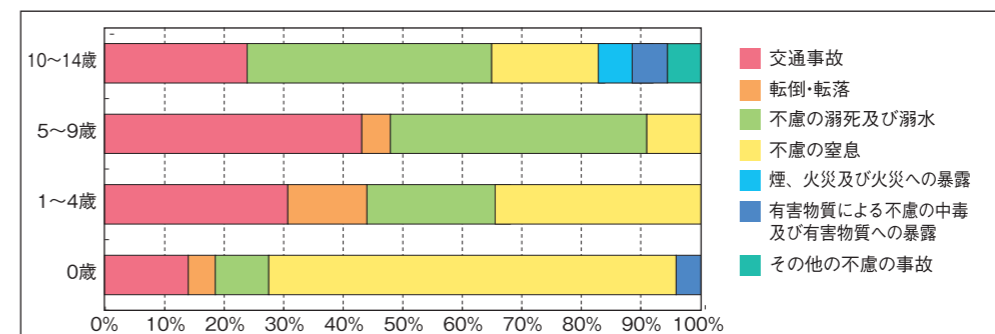
遊ぶ前におもちゃや遊具の対象年齢を確認し、大人がそばで見守るようにしましょう。遊具の安全な遊び方を教えたり、遊びのルールを決め守らせたりなど、危険なことを普段の遊びの中で学習することも大切です。遊ぶ時はひもやフードのついた服、肩かけカバンは身に着けないようにしましょう。

誤飲 けが おぼれ 窒息

公園遊具での危険



年齢別の不慮の事故による死亡原因 (愛知県 2014~2018年の集計)



愛知県の不慮の事故による死亡原因を年齢別に見ると、0歳児では窒息が圧倒的に多く、1歳から4歳までは窒息と交通事故、5歳から9歳までは交通事故と溺水が多いのが特徴的です。その背景には年齢とともに広がってゆく子どもの生活様式の変化があります。死亡にいたらないまでも、事故は日常生活の中で多発しています。乳幼児においては、家庭内での事故予防が大切です。